

スペイン語現在分詞再考

大森洋子

bien, aun *estando* enferma.

(Fernández Lagunilla, 1999, p. 3445.)

1. はじめに

1.1 本論文の目的

スペイン語現在分詞は、主に進行形を作る際に *estar* および擬似繫辞動詞とともに用いられる用法といわゆる分詞構文と称される用法、名詞句内、前置詞 *con*+名詞+現在分詞という句を構成する特殊用法があるが、さらに一見すると名詞を修飾しているように場合がある⁽¹⁾。本稿では、特殊用法とされる用例を中心に考察し、新たな視点にたってスペイン語現在分詞の機能を見直すことが目的である。

1.2 現在分詞用法概観

本節では動詞迂言法の用法（進行形に用いられる現在分詞）以外の主な現在分詞の用法と特殊用法について概観する⁽²⁾。

I. 叙述補語、状況補語としての現在分詞

- (1) a. Juan salió *frunciendo el ceño*.
- b. María ganó una medalla *corriendo*.
- c. Inés recitó el poema de Lorca *temblando*.
- d. Pilar desinfecta el agua *hirviéndola*.
- e. No *habiendo aclarado* las cosas el jefe, no empezamos a trabajar.
- f. Inés recitó el poema de Lorca muy

II. 特殊用法

(2) *con*+名詞句+現在分詞

- a. *Con los precios subiendo* como lo hacen, la inflación será grande.
- b. Vino a casa *con los pies oliendo a cuadra*.
- c. Aquel hombre llegaba siempre a casa *con el aliento apestando a alcohol*.
- d. Se dirigió a Luis *con la mano apretando el gatillo*.

(Gutiérrez Arauz, 1992, p. 210)

(3) 名詞句内

- a. *La narración de los hechos de la acusada llorando* impresionó al jurado.
 - b. *La {llegada/foto} de María sonriendo complacida* fue muy comentada.
 - c. El ruido de la cisterna *goteando* es muy molesto.
 - d. La cara de Luis *mirando* a sus hijos es muy tierna.
- (Fernández Lagunilla, 1999, p. 3462)

(4) 単独で

- a. *¡Tu siempre pidiendo!*
- b. *¿Pepito estudiando?* Eso hay que

- celebrarlo.
- c. *¡Ahora todos vosotros escuchando al director con toda atención!* ¡Nada de murmullos! (*Ibid.*, p. 3496)
- d. Miguel Induráin, ayer, *saliendo de la clínica* donde dio a luz su esposa (*Ibid.*, p. 3499)
- e. *Vieja espulgando a un niño* (Gutiérrez Arauz, 1991, p. 211)
- f. *San Francisco de Borja asistiendo a un moribundo* (*Ibid.*, p. 211)

- d. *Vienen desempeñando* este cargo desde hace catorce años.
- e. El cielo está tan gris que *acabará lloviendo*.

一方、主格補語として機能する現在分詞は主動詞の意味を補う形で現れていることがわかる。

- (7) a. María recitó el poema *temblando*.
 b. María estudia francés *recitando a Mallarmé*.
 (Fernández Lagunilla, 1999, p. 3488)

つまり(7)で用いられている現在分詞は主動詞の表す行為の下位分類をするかのように、*recitar temblando, estudiar recitando* が1つの要素を形成していると解釈し、従って、2重の叙述を形成しているとみなすことが可能である。現在分詞が2次叙述として生起している場合である⁽⁴⁾。さらに(8)の例では、現在分詞が主動詞の表す動作が行われる状況説明と判断され、副詞的な働きをしていると考えられる。

- (8) a. Pedro consigue lo que quiere *esforzándose*.
 b. Los niños de María lloran *dándoles un grito*. (*Ibid.*, p. 3448)

現在分詞は主文とは別個の要素として現れ、主動詞との関係は叙述補語の場合より2次的になっていると言える。生起する位置も比較的自由で、前置することも可能である(9 a, b 参照)。また主文との意味関係が多様であること、主文との独立性が強いこと(9 c, d 参照)などは現在分詞が2次的要素であることを裏付けている。

- (9) a. *Esforzándose* Pedro consigue lo que quiere.
 b. *Dando gritos* lloran los niños de María.
 c. Esta mañana salí de casa *lloviendo*.

2. 現在分詞の機能についての新提案

2.1 現在分詞構造考察

2.1.1 現在分詞の働き：一般用法

現在分詞は典型的には動詞迂言法の1つとして進行形を作る際に用いられる。大森(刊行予定)では、動詞迂言法と叙述補語的に用いられる現在分詞、状況補語の中で用いられる現在分詞に連続性が想定できないかという点について考察している。つまり、現在分詞は動詞としての1次叙述を構成する機能を持たないために進行形を作る際に *estar* の助けを借りる。他に *seguir, andar, ir, venir* など用いて進行形を表す場合があるが、これらの動詞の進行形では主動詞(*seguir, andar, ir* など)が語彙の意味の影響を残しているため一般に典型的な進行形と区別される⁽³⁾。

- (5) a. Alicia *está telefoneando* a su jefe.
 b. *Está lloviendo* mucho estos días.
 c. *Está haciendo* mucho frío.
- (6) a. *Sigue habiendo* poca gente en esta sala.
 b. *Anda pensando* casarse.
 c. *Va anocheciendo*.

d. Luis es feliz *siendo médico*.

(*Ibid.*, p. 3448)

叙述補語としての現在分詞、状況補語としての現在分詞はそれぞれ文の中で果たす役割が異なりながら、すべて動詞の定形と比べると、それ自体で文を構成できない——1次叙述を作ることができない——という点で共通し、そこに大きな特徴がある。

2.1.2 現在分詞：特殊用法

「現在分詞は叙述関係をつくるが、1次叙述を構成する性質を持たない」と定義した場合に、その定義は特殊用法の現在分詞にも当てはまるだろうか。次の例を観察しよう。

- (10) a. *Con los precios subiendo como lo hacen*, la inflación será grande.
 b. *Vino a casa con los pies oliendo a cuadra*.
 c. *El ruido de la cisterna goteando* es muy molesto.
 d. *La cara de Luis mirando a sus hijos* es muy tierna.
 e. *¡Tú siempre pidiendo!*
 f. *¿Pepito estudiando?* Eso hay que celebrarlo.

それぞれ現在分詞は文中の要素と関係し、1つの命題を構成している。命題自体の意味的役割が“ある事態についての述べる”ということであれば、それぞれが1つの事態を切り取るという役割を果たしていることがわかる。1次叙述を構成するとその事態に何らかの評価（肯定、否定など）が与えられ1つの文を構成するが、現在分詞は事態を構成するにとどまっており、それがcon前置詞句内、名詞句内の補部、および独立用法という環境に現れていると言える（3節参照）。

2.1.3 新しい視点から見る現在分詞の機能

2.1.1, 2.1.2で概観したとおり、進行形、いわゆる分詞構文、また特殊用法に用いられる現在分詞はどれも1つの叙述を構成するが、そこに動詞本来の機能である1次叙述の機能を持たないということが観察された。従って、進行形の場合には助動詞、さらに擬似繫辞動詞と定義される *ir*, *venir*, *andar* などとともに用いられて文を構成し、分詞構文では、2次叙述を構成するか叙述を完成させた要素が独立して主文の動詞と修飾関係を結ぶかによって、叙述補語分詞、状況補語分詞に分類されることになる（Fernández Lagunillaの用語では叙述補語分詞、付加現在分詞）。同様に特殊用法とされる現在分詞は、どれもが1つの事態を表す叙述を構成する独立した単位を作っていることがわかる⁽⁵⁾。

動詞の不定形には他に、不定詞、過去分詞がある。動詞の働きを「叙述を構成すること」と理解すると、現在分詞と他の不定形との違いについても触れる必要があるだろう。一般に、不定詞は名詞的性質、現在分詞は副詞的性質、過去分詞は形容詞的性質を持つと説明され、不定詞はその行為全体を、現在分詞は行為の過程を、過去分詞は行為の結果をプロファイルすると説明されている⁽⁶⁾。（cf. Alarcos 1968, Porto Dapena 1989）。

- (11) a. *Conviene vivir sanamente*.
 b. *¿Quieres esperar un momento?*
 (12) a. *Lo dijo gritando*.⁽⁷⁾
 b. *Vino corriendo*.
 (13) a. *El ladrón, asustado por la policía, huyó precipitadamente*.
 b. *Tiene dos hijos nacidos en Zaragoza*.

現在分詞に副詞的な働きがあるとするのは、文中での機能を問題にした結果であると言える。現在分詞は文中で叙述関係という1つの単位をつくっ

ているが、その単位の多くが文中で副詞的な働き、つまり1次叙述を修飾しているからである。

- (14) a. Pepito vino *llorando*.
 b. Encontró a los alumnos *hablando*.
 c. *Paseando* por la calle, descubrí una tienda de antigüedades.
 d. En el techo había varias lámparas *colgando*. (Porto Dapena, 1989)

主文の中で構成された叙述関係と現在分詞で作る叙述関係がなんらかの関係を持つことになり、その関係が2次叙述であったり、状況補語であったりする。一方、*¡Pepito estudiando en casa!* といった例では、1次叙述が形成されていないために特殊用法とみなされる。

以上のように、現在分詞を叙述形成という観点から定義すると、今までで別個に扱われた特別用法が同じ視点から分析できることがわかった。この視点にたって改めて特殊用法を詳しく分析するが、その前に2.2節で不定形としての現在分詞を不定詞、過去分詞と比較しながら考察する。

2.2 動詞定形・不定形

2.2.1 不定形：現在分詞と不定詞

まず不定詞と現在分詞の特徴を考察する。この2つはPorto Dapena (1989)も指摘するように、過去分詞と対比すると動詞性をより保持しているという点で共通している。

- (15) a. Me escribió para *contarme* lo sucedido.
 b. ser estudiado, *haber* comido
 (16) a. *Estando* yo en Holanda murió mi tía Juanita.
 b. *siendo* visto, *habiendo* visto

(*Ibid.*, p. 136)

(15a), (16a)で示すように、不定詞、現在分詞

ともにそれ自体が主語、目的語をとまって現れることがまず第1の特徴であることを指摘している。さらに(15b), (16b)は定形動詞とおなじように受身形、複合形をつくることが可能であることを示している。この2つの特徴は動詞の典型的な特徴であり、不定詞、現在分詞が過去分詞と比較するとより動詞的であることを示している。

しかしながら、不定詞、現在分詞の相違点もある。第1に、現在分詞と比較すると不定詞の場合はそれ自体が主文の主語、繫辞動詞の補語、他動詞の目的語として機能することが可能である。この特徴が、不定詞が名詞的な特徴を兼ね備えているとされる所以である。さらに、不定詞はそれだけで分詞構文のような構造を作ることではない。

- (17) a. Al *terminar* el trabajo, ellos se fueron.
 a.′ **Terminar* el trabajo, ellos se fueron.
 b. De *haberlo* sabido, hubiera venido antes.
 b.′ **Haberlo* sabido, hubiera venido antes.
 c. *Dando* un buen servicio público de transportes, la gente dejaría el coche.
 d. *Faltando* Juan, la fiesta resultaría aburrida.

これには現在分詞のもう1つの大きな特徴が関わっている。現在分詞は叙述を構成するが、その構成した叙述は他の叙述関係と何らかの関係を成立させようとする単位と定義できる。Fernández Lagunilla (1999)で定義されている外的付加詞、つまり文修飾的な現在分詞(17c, dを参照)が主文と何らかの意味関係を形成して生起しているのがその典型例である⁽⁸⁾。

第2に、不定詞句が文を構成する単位として生

起し、主文の要素をコントロールするのに対し、現在分詞は、それ自体が1つの事態を補足的に表し、文中では常に付加的要素として出現する。現在分詞自体が叙述の構成を促す単位と言え、助動詞を取って進行形を作るか、主格補語、目的補語、状況補語として、または独立構文として主語を伴って現れる⁽⁹⁾。

- (18) a. *Querer es poder.*
 b. Le prometí *ir* a buscarle hoy. (María Moliner)
 c. No me dejan *llegar* ni cinco minutos tarde. (Vox)
 d. Es mejor no *salir*. (Vox)
- (19) a. *Vino corriendo.*
 b. Vi *llorando* a la niña.
 c. Inés recitó el poema de Lorca muy bien, aun *estando* enferma.
 d. No *habiendo* aclarado las cosas el jefe, no empezamos a trabajar.

以上の例から、不定詞に対して、現在分詞は動詞の叙述性という性質をより残した不定形ということが言える。

2.2.2 不定形：現在分詞と過去分詞

現在分詞と過去分詞の出現例を観察してみよう。

- (20) a. Los niños llegaron *cansados*.
 b. Los niños vinieron *corriendo*.
- (21) a. Vi a los niños *cansados*.
 b. Vi a los niños *llorando*.⁽¹⁰⁾
- (22) a. Tampoco hables o escuches con las manos *metidas* dentro de los bolsillos.
 b. No sentarse con las piernas *colgando* o *cruzadas*.⁽¹¹⁾

これらの例に見られるように、どの場合も2次述

語を構成するコンテキストに現在分詞と過去分詞がどちらも出現が可能なのである。つまり、どちらも叙述関係を作ることは可能だが1次叙述を構成しないという動詞不定形の性質を持っている。

しかしながら、過去分詞は不定詞、現在分詞とは大きな違いがある。第1に、意味的な違いとして、現在分詞の特徴として動作の継続を表しているのに対して、過去分詞が動詞の動作の完了、結果状態を表している点である。第2に、過去分詞は助動詞 haber と用いられる場合以外は語尾変化をすること、項構造も動詞とは異なり、1項述語を構成することである（その場合には他動詞構造、非対格動詞構造の内項を項にとる）⁽¹²⁾。

- (23) a. La comida está *servida*.
 b. El proyecto no está *terminado*.
 c. ¿Con qué material está *construida* la Estatua?
- (24) a. Ya está *llegado* el momento y...
 b. Los libros están *agotados*.
 c. El aire está *enfriado*.

動詞内の項構造に変化が生じていること、さらに形容詞の特徴である語尾変化が現れることは、過去分詞が動詞としての機能よりも形容詞としての機能を強く現し、語彙範疇の変化していることを示している。現在分詞との類似性は、それぞれが持つ叙述性ということに起因するが、過去分詞のそれは形容詞としての叙述性であるために、項は1つでそれが必ず主語として実現するという性質を持つのである。

動詞の不定形は前述のとおり不定詞、現在分詞、過去分詞に分類され、Alarcos (1968) 等ではそれぞれ名詞的役割、副詞的役割、形容詞的役割を持つと説明されている。本論での視点に立って言い換えると叙述関係をつくりながら不定詞は文中で項として出現する、現在分詞は補語または付

加詞的に出現する、過去分詞は形容詞としての性質を帯びる、というふうに捉えることができる。

3. 現在分詞：特殊用法の再分析

以上、2節では現在分詞が叙述関係を構成するが、動詞の定形とは異なり、1次叙述を構成することができないことを観察した。本節では、いわゆる特殊用法の現在分詞の振る舞いが本論の枠組みでどのように説明されるかを考察するが、最初に、叙述補語としての現在分詞について概観しておく。

3.1 叙述補語としての現在分詞

現在分詞が叙述補語、特に主格補語として生起する場合、いわゆる状況補語と対比される (cf. Fernández Lagunilla, pp. 3448–3449)。

(25) a. Pedro consigue lo que quiere *esforzándose*.

cf. *Esforzándose*, Pedro consigue o que quiere.

b. El vino (me) sabe mejor *tomándolo* en copa.

c. Luis es feliz *siendo* médico.

d. Desveló el secreto {buscando/* encontrando} la llave.

(26) a. Los niños de María lloran *haciendo* pucheros.

b. Luis trabaja *cuidando* niños.

c. Luis pasea *cantando* Aida {durante una hora/* en una hora}.

(25)が状況補語としての現在分詞、(26)が叙述補語としての現在分詞の例で、状況補語として生起する現在分詞の場合に、主動詞の前に置くことが可能であり、主語が明示されていなくても生起でき

る。さらに、(25c)で観察されるように、主動詞 (desvelar—遂行動詞) とは異なる語彙アスペクトを持つ動詞 buscar (動作動詞) を用いた現在分詞の用法が可能であるなどの特徴を持つ。一方、叙述補語では、位置の制限があること、現在分詞の主語は必ず主文の主語であること (従って主格補語とされる)、主文の動詞の語彙アスペクトに合致する副詞の共起のみが可能であること (つまり動作動詞 pasear と共起可能な副詞句—durante una hora のみが生起できる)、などの特徴を持っている。

叙述補語、状況補語として現れる現在分詞は、どちらも2次叙述を完成させている点では共通である。その叙述が主文の主語に関する場合には、主文の動作について補足的に説明しながら、主文の行為と同時に起こる叙述を構成することになる。それに対して、状況補語として生起する現在分詞の場合には主文との意味関係は叙述補語の現在分詞とは異なりさまざまである。

(27) a. El paro se reduce *incentivando* la inversión.

b. Vendió las acciones *previando* la bajada de la bolsa.

c. Ganarás la carrera *entrenándote* más.

d. Aun *siendo* su amigo, la traicionó.

文中の意味関係、原因、条件、譲歩等は、それぞれコンテキストなどの語用論的な要因によって決定される。

叙述補語、状況補語として用いられる現在分詞はそれぞれ2つの文中での機能は異なるが、どちらも叙述関係を提示し、ある事態を明示しているという点で共通している。

3.2 con + 名詞 + 現在分詞

前置詞 con はある物の付帯、付随を表すとい

うのが基本的な意味であるが、付帯するものが物だけではなくと考えることは可能であろう。ある具体的な「もの」を付帯しているのではなく、ある状態を付帯していると考え、con+名詞+現在分詞が生起すると考えられる。これらは、現在分詞だけでなく、広く形容詞、過去分詞が生起することが指摘され、この現在分詞が形容詞的用法とされる所以である⁽¹³⁾。Demonte y Masullo (1999) では con 前置詞句が叙述補語とする次の例を挙げている。

- ㉘ a. Iba a la iglesia *con un libro en la mano*.
 b. Subió *con las rodillas dobladas*.
 c. El PSOE llegó *con la ciudadanía embabiecada y esperando el milagro de la democratización de España*.
 d. *Con su voz susurrada*, con el vuelo de su abrigo...

さらに現在分詞が生起する例としては、次のような例がある。

- ㉙ a. De esta guisa llegó *con el corazón brincando dentro de su pecho*...
 (Falcones de Sierra, 2009, p. 359.)
 b. Ambos hombres se fundieron en un abrazo y Leonard, *con una lágrima pugnando por escapar de sus ojos*, se encaramó al estribo del vagón.
 (Llorenz, 2003, p. 122.)
 c. El muchacho le hizo un gesto *con la mano indicándole* la dirección contraria.
 (Falcones de Sierra, 2009, p. 181)
 d. Hernando se sintió débil de repente, levemente mareado, *con el estómago revuelto y un sudor frío recorriendo*

su espalda.

(p. Falcones de Sierra 2009, 183)

- e. Golpeó *con el corazón galopando*, oyó un ladrido...

(Isabel Allende, p. 344)

これらは、江藤 (2001, 2009) が指摘しているとおり日常言語において多くの例が観察されている。江藤 (*Ibid.*) ではこれらをネクサス句と呼び、スペイン語の規範文法での説明では形容詞するために特殊の例とされるが明らかにネクサス関係があるとしている。このネクサス関係がつまり本論でいう叙述関係であり、叙述関係がある事態を提示する機能を持つ⁽¹⁴⁾。

㉚に観察される例からもわかるように、名詞の後ろに現れる句は、形容詞でも状態レベル述語に限られている。このことは、状態レベルの形容詞は、過去分詞、現在分詞と同じように1次叙述を形成するためには *estar* を用いることを示している興味深い(注(9)を参照のこと)。

3.3 名詞句内に現れる現在分詞

次の例は名詞句内に現れる現在分詞の形容詞的用法として解釈される例である。

- ㉛ a. La narración de los hechos de *la acusada llorando* impresionó al jurado.
 b. La foto de *María sonriendo complacida* fue muy comentada.
 c. La fuerza de *Deep Blue* equivale a la de *32 ordenadores domésticos funcionando* de forma simultánea y sincronizada. [...]
 d. La imagen buscada era de *Aznar ascendiendo en solitario las escalinatas* de La Moncloa.

- e. Los modales de *Juan comiendo* dejan mucho que desear.

(a-e Fernández Lagunilla, p. 3492)

- f. Desde los campos les llegaban las voces de *los esclavos cortando caña*, todos al mismo compás.

(Isabel Allende, p. 92)

- g. La visión de *Fátima temblando y vomitando* le impelió a hacerlo, y...

(Falcones, p. 278)

これらの句に生起する現在分詞はすべて名詞句の補部に現れ、この出現には名詞句の主要部の性質が大きく関わっている。主要部が言及する内容が名詞で表される具体的な「もの」でなく、事態を想定している場合がある。事態は典型的には叙述関係を持って表されるために、補部に名詞+現在分詞が現れ叙述関係を形成する。(30)の例ではそれぞれ *los hechos*, *la (fuerza)*, *la imagen*, *los modales*, *las voces*, *la visión* の具体的内容としてある事態が示されている。事態の描写を可能にしているのが現在分詞であると考えられる⁽⁴⁵⁾。

これらの現在分詞に関して、Fernández Lagunilla (1999, p. 3492) では、意味・アスペクト上の制限があることを指摘している。

- (31) a. La cara de *Luis escribiendo* a máquina

a' *La cara de *Luis conociendo* la noticia

- b. La foto de *Juan entrando* en una casa de masaje ha sido difundida por todo el mundo

b' *La foto de Juan estando en la cama ha sido difundida por todo el mundo

(29a', b')では補部に状態を表す動詞の現在分詞

が生起するために文法的ではないとしている。これは、現在分詞のこの用法がある事態を切り取っている用法と言え、動的な事態であるほうがその意味により合致するからと解釈できる。

事態に言及するためには叙述関係の構築が必要である。そのために名詞句内での現在分詞の生起を可能にしていると考えられる。

3.4 独立して現れる現在分詞 (名詞句+現在分詞)

最後に、現在分詞が単独で現れ名詞句を修飾していると解釈される表現について考察する⁽⁴⁶⁾。

- (32) a. ¡*Tú siempre pidiendo!*

b. ¿*Pepito estudiando?* Eso hay que celebrarlo!

c. ¡*Ahora todos vosotros escuchando al director con toda atención!*

(Fernández Lagunilla, p. 3496)

d. Miguel Induráin, ayer, *saliendo de la clínica donde dio a luz su esposa*

(Fernández Lagunilla 1999, p. 3499)

- e. *Vieja espulgando a un niño* (Murillo)

(Gutiérrez Araus, 1991, p. 211)

f. *San Francisco de Borja asistiendo a un moribundo* (Goya) (*Ibid.*, p. 211)

g. (Vivíamos allí) *Josefina-mi prima- y yo; ella cuidando sus hermanos y yo a los míos.*

(Fernández Lagunilla, 1999, p. 3500)

h. Un fuerte huracán de agosto inundó buena parte de Nueva Orleans; nada grave, ocurría a menudo y a nadie le inquietaban demasiado las calles convertidas en canales y *el agua sucia paseándose por sus patios.*

(Isabel Allende, 2009, p. 315)

Fernández Lagunilla (1999) では、独立して現れる現在分詞を3つのタイプ — Gerundios exclamativos, interrogativos e imperativos : 感嘆, 疑問, 命令の現在分詞 (30a, b, c), Gerundios epigráficos : 注釈の現在分詞 (30d, e, f) Gerundios narrativos : 語りの現在分詞 (30g, h)に分けている (cf. Fernández Lagunilla, 1999, pp. 3496-3500)。しかしながら、これらの例文に共通しているのは現在分詞が叙述を構成しているが、1次叙述を構成していないために、完全な文とみなすことができない点である。この構文では Gemma Herrero (1994) が指摘するように、この形が単独で現れることなく、常にコンテキストに依存し、叙述、命令、質問などさまざまな発話機能を持つことが可能であることが観察されている。これは、まさに現在分詞が叙述を構成するという機能を持つためと言える。コンテキストによってさまざまな発話機能を表すが、完全な文でないところに特殊の効果を見出すことができる。

最後に③の例を考察しよう。Fernández Lagunilla (1999) ではこれらに現れている現在分詞を名詞句を修飾する現在分詞として分析している。

- ③ a. Realizaron un reportaje *contando* lo sucedido.
 b. Publicó un artículo *condenando* el atentado.
 c. El Gobierno ha enviado a la Oposición un escrito *pidiéndole* su colaboración.

(Fernández Lagunilla, 1999, p. 3494)

一方④では主文の主語が現在分詞のそれと異なる場合には文法的な文でないことを示している。

- ④ a. *Censuraron un reportaje *contando* lo

sucedido.

- b. *Quemó un artículo *condenando* el atentado.
 c. *El Gobierno ha enviado al Senado una ley *prohibiendo* la venta en las calles. (Ibid., p. 3494)

つまり、現在分詞、*contando*, *condenando*, *pidiendo* は主文の主語との叙述関係を結び、動詞句の意味を補強していると考えられることもでき、このような見方をするとこの種の現在分詞は主格補語的な役割を果たしているといえる(17)。

4. 結 語

本論文では、スペイン語現在分詞の用法について概観し、伝統文法その他で言われてきた副詞的な機能を帯びるという見方について再検討した。現在分詞は叙述関係を結ぶ役割を持つが一次叙述を構成することのできない要素であると定義すると、従来特殊用法とされてきた con 前置詞句の中で現れる現在分詞、名詞句の補部に現れる現在分詞、独立用法的に用いられる現在分詞等が叙述補語の現在分詞、状況補語として用いられる現在分詞と同じ機能を果たしていることがわかる。

現在分詞の機能の主要な機能について叙述関係をキーワードにして定義することでさまざまな用法の統一的側面を探ることはできた。しかしながら、個々の現在分詞の生起にかかわる統語的、意味的、語用論的側面については扱っていない。これらに関する詳しい記述が今後の課題である。

注

(1) Eto (1991), 江藤 (1985, 2000, 2001, 2009) 参照のこと。

(2) 例は Fernández Lagunilla (1999), María Luz

- Gutiérrez Arauz (1992) から引用。
- (3) *El teléfono viene acercándose.* が可能なのに対して、*El teléfono va acercándose.* が文法的ではないのは動詞 *venir*, *ir* の語彙の意味が影響しているとする (Porto Dapena, 参照のこと)。主動詞が語彙の意味を強く表すと、現在分詞は補語として働くことになり、ここに現在分詞の用法に関する連続性を観察することができる (cf. 例文(7))。詳しくは大森 (刊行予定) を参照のこと。
- (4) これらの現在分詞の用法についての詳しい説明は Fernández Lagnilla (1999) を参照のこと。
- (5) 叙述関係を持つ1つの単位を作ると言うことは、動詞自体が要求する内項、外項とも共起することができるということを意味していて興味深い。
- (6) 現在分詞の用法については、実際には分詞 (*participio*) としての働き、形容詞的性質を持っていると主張する文法家のいることを指摘している (Porto Dapena, 1989, p. 135)。また実際に形容詞としての用法も存在するとして *agua hirviendo* の例を引用している (Ibid., p. 136)。
- (7) これらの例は Fernández Lagunilla (1999) の分析では叙述補語現在分詞になり、副詞用法とはみなしていない。
- (8) これらのいわゆる分詞構文ではさまざまな意味関係が観察されると論じられているが、これはコンテキスト、話者の背景知識などの語用論的な要因から生じるものである。
- (9) 状況補語として現れる現在分詞の場合には、主動詞の表す内容について叙述すると理解することが可能で、通常は現在分詞の主語は主動詞と同じと解釈される場合が多い。しかしながら、*Una lengua, siguiendo a Sussure, es un sistema de signos.* という例では、*seguir* の主語は話者と理解される。現在分詞の主語が文中の要素をコントロールしない例と言える。
- (10) 知覚動詞によるこの種の構文には不定詞も現れることが可能である (cf. *Vi llorar al niño.*)。これらは小節 (*cláusula mínima*) の特徴として別個に論じる必要があるだろう。
- (11) *estar* のあとで現在分詞を用いる (進行形をつくる) 場合と過去分詞を用いる (状態を表す) という点でも共通性がみられ、この点は *estar* と *ser* の違いを把握する際の一助をなすと考えられる (Morimoto, Omori y Yamamura 2009 参照のこと)。
- (12) 外項のみを持つ非能格動詞の過去分詞は形容詞的な使い方は少ない。
- (13) 現在分詞の形容詞用法は María Luz Gutiérrez Arauz (1992) を参照のこと。
- (14) Luis desinfecta la ropa con agua hirviendo. (Fernández Lagunilla, 1999, p. 3445) における *agua hirviendo* を一般に現在分詞が名詞を修飾する例として分析される。この解釈は無冠詞名詞 (ここでは *agua*) は普通叙述関係を結ぶ主語の位置に現れないという特性および前置詞 *con* の道具的解釈に起因すると思われる。さらに、*agua hirviendo* はそれ自体が形容詞として語彙化された *hirviendo* と *agua* が名詞句を形成しているが、その動作が進行中であることにも注意を向けるための表現形式とみなすことができる。
- (15) 同じことが、*Hay mucha gente comprando el periódico.* (Fernández Lagunilla, p. 3491) における例でも観察される。存在するが具体的な「もの」ではなくある事態——人々が新聞を買う——を描写している例である。
- (16) 例文(32)は一部を除いて例文(4)を再掲。
- (17) 少なくとも叙述関係を結ぶ名詞句——意味役割としては動作主——の存在が前提となっている。*Se proyectó un reportaje contando lo sucedido en China.* (Fernández Lagunilla, 1999, p. 3493) と *Fue entregado al director un artículo explicando la polémica.* (María Luz Gutiérrez Arauz, 1994, p. 211) では、叙述関係を結ぶ名詞句が明示されていない例である。なお、主格補語としての分析を *Se proyectó un reportaje de Pedro contando lo sucedido en China.* が可能であることから妥当でないという議論が考えられるが、後者の文は *reportaje* の補部に叙述関係を成立させる *Pedro, contando* が生起する場合 (3.3 で扱ったタイプ) でわれわれの主張の反例にはならない。

参考文献

- Alarcos Llorach, Emilio. 1968. "Verbo transitivo, verbo intransitivo y estructura del predicado" en Alarcos 1970. *Estudios de gramática funcional del español*, Madrid: Gredos. pp. 109-123.
- Cayuela, Nuria Lucena, et al. 2003. *Vox Diccionario de uso del español de América y de España*. Barcelona: Spes Editorial.
- Demonte, Violeta y Pascual José Masullo. 1999. "La predicación: los complementos predicativos" en *Gramática descriptiva de la lengua española*. Eds. Ignacio Bosque y Violeta Demonte. Madrid: Espasa-Calpe. pp. 2461-2523.

- Eto, Ichiro. 1991. "Reflexión sobre el uso circunstancial de gerundio", *Lingüística Hispánica*, 14. pp. 25-46.
- 江藤一郎. 1985. 「スペイン語の現在分詞の用法について」『外国語教育』11号. 天理大学外国語教育センター. pp. 25-38.
- 江藤一郎. 2000. 「現在分詞用法の再検討」『Hispanica』44. pp. 1-12.
- 江藤一郎. 2001. 「現在分詞の用法の再々検討（ネクサス句と主格補語の用法をめぐって）」『神田外語大学紀要』第13号. pp. 229-254.
- 江藤一郎. 2009. 「スペイン語の現在分詞特殊用法再考」『神田外語大学紀要』第21号. pp. 41-60.
- Fernández Lagunilla. 1999. "Las construcciones de gerundio" en Bosque, I. y Demonte, V eds. *Gramática descriptiva de la lengua española*. Madrid: Gredos. pp. 3443-3503.
- Gutiérrez Arauz, María Luz. 1992. "Sobre la función adjetival de gerundio" en *Homenaje a Humberto López Morales*. Madrid: Arco/Libros. pp. 205-220.
- Herrero, Gemma. 1994-95. "El gerundio independiente" en *Estudios de lingüística*. 10. pp. 165-178.
- Moliner, María. 2007. *Diccionario del uso*. 3ª edición. Madrid: Gredos.
- Morimoto, Yuko, Omori Hiroko y Yamamura Hiromi. 2009. "El concepto de predicado de estuadio y la enseñanza de los verbos atributivos-tratamiento alternativo de la oposición - *ser y estar* -" *スペイン語学研究* 24号. pp. 51-73.
- 大森洋子 (刊行予定) 「現在分詞構造に関する一考察」
- Porto Dapena, José Álvaro. 1989. *Tiempos y formas no personales del verbo. Español para extranjero*. Madrid: Arco/Libros.

例文参照資料

- Allende, Isabel. 2009. *La isla bajo el mar*. Barcelona: Randam House Mondador, S. M.
- Falcones de Sierra, Ildefonso. 2009. *La mano de Fátima*. Barcelona: Grijalbo.
- Llorens, Chufo. 2003. *La saga de los malditos*. Barcelona: Ediciones, B.